

図書館だより



5月号

2022年5月23日
安田小学校図書室

植物の本棚の前で、1年生の男の子と6年生の女の子が本を見ていました。「こんなものもあるよ、どんなのがいいの？」カウンターで花の本がないか聞いた男の子を、本棚の前まで連れて行って、本が決まるまで相談に乗ってあげている様子でした。

棚を指さすだけで終わらせることもできたはずなのに、何のためらいもなく、寄り添ってあげる姿が光っていました。



図書委員会が休み時間に作った季節の掲示です。水の感じがよく出ています。

リーディングビジット

朝読書の時間に、いろいろな先生が各クラスを訪れて本を紹介する「リーディングビジット」が始まりました。

4年生の教室では、校長先生が『車のいろは空のいろは白ぼうし』あまんきみこ/作 ポプラ社の読み聞かせをして、「校長先生が小学生の時、国語の教科書にこの話が載っていたんだよ。」という話をしました。子供たちは、もっと聞きたい、紹介された本を読みたいという気持ちになったようでした。

リーディングビジットは毎月行われます。紹介された本は、図書室に展示コーナーを作って、借りることができます。



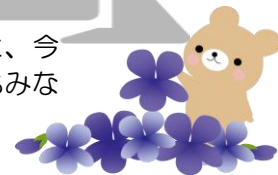
保護者の皆様へ

暑い日が続きますが、例年通りであれば6月上旬には梅雨入りです。雨の日が増えるシーズンを前に、今回は本の取り扱いについてお願いがあります。

もし、本が濡れてしまったときは、乾かさず早めに図書室に持ってこさせてください。濡れたページが乾ききってしまうと、紙が波打って元に戻らなくなってしまいます。本が破れた時のご家庭で修理はせずに、図書室のカウンターで伝えるようにしてください。どんなに気を付けていても、本が傷むことはあります。公共のものを大切に扱うことはもちろんですが、何か起きた時に「ぬらしてしまいました。」「破れてしまいました。」と、きちんと伝えられるようになってほしいと思っています。

自然となかよしになれる本

1・2年生の草つき、遠足、3～6年生の宿泊学習と、今の季節は自然と触れ合う機会がいっぱいです。図書室もみなさんの活動が豊かになるよう応援します。

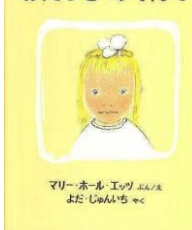


低学年

『わたしとあそんで』

マリー・H・エッツ/ぶん 福音館書店

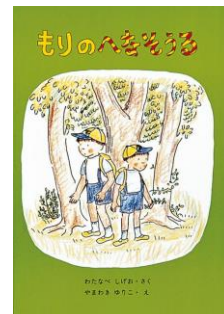
わたしとあそんで



ばったやかめと遊びたい女の子。でも、手を伸ばすと生き物たちは逃げてしまいます。しかたなく池を眺めていると、静かになった池のほとりにみんな戻ってきて…。生き物との付き合い方をそっと教えてくれる絵本です。

『もりのへなそうる』

渡辺茂男/作 福音館書店



てつたくんとみつやくんの兄弟は、二人で森に探検に出かけます。そこで見つけたのは、恐竜みたいなへんてこな生き物「へなそうる」。さし絵いっぱい、読みやすい幼年童話。

中学年

『スマレとアリ』

多田多恵子/監修 偕成社



田んぼのあぜや、アスファルトの隙間に顔を出す小さなスマレの花が、どうやってそこに運ばれているのかを知ることができる写真絵本。自分では動けない植物が、さまざまな虫の力を借りることで命をつなげている、その知恵に感心します。

『もりのえほん』

安野光雅/絵 福音館書店



森の景色を描いた絵本？いえいえ、じいっと見てください。最初の一匹に気づくと、あちらからもこちらからも動物の姿が現れます。画家でもある安野光雅が手掛けた楽しい探し絵本。

高学年

『米が育てたオオクワガタ』

山口進/文 岩崎書店



オオクワガタの魅力に取りつかれた作者は、雑木林で虫たちが集まる不思議なクヌギの木と出会う。それは、米作りと深くかかわる「カッチキ」と呼ばれるものだった。クワガタの生態とともに、人と自然との関わりが詳しく解説されているノンフィクション。

『ぼくだけの山の家』

ジーン・C・ジョージ/作 偕成社

アメリカに住むサムは、ニューヨークの便利な暮らしと家族から離れて、たった一人、山奥で暮らし始めた。持ってきたのはわずかの道具だけ。木のうろを家に作り替え、獣を取るわなを仕掛けて食料を調達する自給自足の暮らしは、不安ととり合わせだが、生きる実感にあふれていた。少年の一年間のサバイバル生活を描いた名作小説。